



名古屋外国語大学フランス語学科主催 講演会 2017



アントワーン・ヴォロディーンヌ ポスト・エグゾティスムにおける 物語の転覆

タルコフスキー的世界をヌーヴォー・ロマンの筆致で描き続ける
気鋭のフランス人作家が緊急来日。

今世界文学が取り組むべき課題について語ります。

日時

2017年5月18日 木
15:00~16:30 (4限)

会場

7号館 701 教室

対象

名古屋外国語大学の学生・教職員、
名古屋学芸大学の学生・一般市民など

共催

名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター



協力

ベタンクール＝シュエラー財団
ヴィラ九条山



申込不要

参加無料

使用言語：
フランス語（日本語通訳あり）

Antoine Volodine



©Didier Gaillard.

講演者

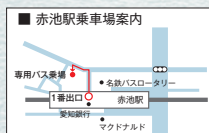
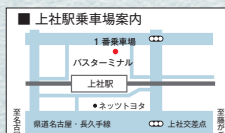
アントワーン・ヴォロディーンヌ

アントワーン・ヴォロディーンヌ氏は、1950年フランスのリヨン北部シャロン・シュール・ソーヌ生まれ。大学で文学とロシア語を学び、14年間ロシア語教師として勤務した後、1987年作家・翻訳家として独立。ストルガツキー兄弟の翻訳を手がけるとともに、SF風作品を次々と発表。以来4種類のペンネームを使い、「ポスト・エグゾティスム」の立場から既に40作品を発表（ヴォロディーンヌ名義では20作品）。2014年メディシス賞を受賞した *Terminus Radieux*『放射する終着駅』（未訳）の物語は「第二連邦」の放射能汚染されたシベリアを舞台とする。著者は自らの作品をSFとする見解を拒否、ロシア文学とラテンアメリカ文学の影響を強調している。邦訳に『アルト・ソロ』（白水社）、『無力な天使たち』（国書刊行会）、『骨の山』（水声社）。古川日出男氏は「無力な天使たち」に推薦文を寄せ、ヴォロディーンヌ氏を「世界をホログラフィーの感性で捉えられる人間」と語る。新しいタイプのフランス人作家として国際的に注目されており、2015年に東京大学の招聘で初来日、現在2017年1月から6月まで、ベタンクール＝シュエラー財団とアンスティチュ・フランスの支援を受け、京都のヴィラ九条山（アンスティチュ・フランス日本5支部のうちの1つ）で日本が舞台となる次回作の執筆を進めている。



■本校へのアクセスについて

名古屋市営地下鉄 東山線「上社」駅および鶴舞線・名鉄豊田線「赤池」駅より本学専用バスを運行しており無料でご利用いただけます。本学までの所要時間は、約15分です。ご乗車の際、運転手に本講演会にご参加される旨をお伝えください。また、お車での来校はご遠慮ください。詳しくは学校HPでご確認ください。



■お問合せ

電話での本学へのお問い合わせは
(0561) 74-1111 (代) まで

名古屋外国語大学

470-0197

愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57